

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

アルコール依存症の早期介入から回復支援に至る
切れ目のない支援体制整備のための研究（20GC1015）
妊産婦への飲酒実態調査及び早期介入

研究分担者 杠 岳文 肥前精神医療センター 院長
研究協力者 福田貴博 肥前精神医療センター 医師
角南隆史 佐賀県医療センター 医長
石井博修（佐賀県医療センター好生館）
手塚幸雄（琉球病院）
松口和憲（福岡市精神保健福祉センター）

研究要旨：

2009年の厚生労働省の調査によれば、妊娠中に飲酒した経験のある妊婦の割合は8.7%である。2018年、協会けんぽ沖縄支部と那覇市浦添市との共同調査では、妊娠中の飲酒が14%であった。一方、妊産婦への飲酒に対する指導は、十分とは言えない。本研究では、妊産婦の飲酒の実態調査を行い、また産婦人科医らと協力して、実践的な妊産婦への飲酒に対する指導用のツールを作成する。

A. 研究目的

- ・妊産婦における飲酒の実態を明らかにする。
- ・妊産婦対象の節酒指導用ツール、啓発用ポスターを作成する。
- ・飲酒習慣のある妊産婦には節酒指導を実施する。

B. 研究方法

本研究の研究計画は下記の通りである。

2020年度：

妊産婦の飲酒実態調査を行うフィールドを選定する。また、研究協力者を産婦人科医から募る。

2021年度：

選定したフィールドで、妊産婦の飲酒実態調査を行う。また、妊産婦対象の節酒指導用ツール、啓発用ポスターなどを作成する。

2022年度：

作成した妊産婦対象の節酒指導用ツールを実際に用いて、個別の節酒指導を実施する。実施した上で、節酒指導用ツールのブラッシュアップを行い、マニュアルを作成する。

（倫理面への配慮）

「妊産婦の飲酒についてのアンケート調査」として、調査内容、研究方法について肥前精神医療センターの倫理委員会で審査を受け、承認を受けている。

C. 研究結果

2020年11月、佐賀県産婦人科医会所属医師に対して、郵送による無記名のアンケート調査を行った。43人中20人から回答を得た。回答者の属性は、男性17名、女性3名、40代2名、50代5名、60代9名、70代以上が4名であった。

質問 1、妊産婦の飲酒習慣についての問診
についてでは、

- ① 飲酒習慣の有無を尋ねる：9人、
- ② 飲酒頻度を具体的に尋ねる：3人
- ③ 飲酒量を具体的に尋ねる：2人、
- ④ 飲酒頻度、飲酒量を具体的に尋ねる：
5人
- ⑤ 飲酒習慣についてのスクリーニング・
問診は実施していない：6人
- ⑥その他：1人

質問 2、妊産婦の飲酒習慣について、スク
リーニング用ツールを使っていますか？
(複数回答可) に対して、

- ① AUDIT：0人
- ② CAGE：0人
- ③ KAST：0人
- ④その他のツール：0人
- ⑤使用していない：20人

質問 3.妊娠 20 週の妊婦に対して、1 日の
飲酒量としてどの位の量が許容できると
思いますか？

- ① 一滴も飲まない：16人
- ② 缶ビール 500ml 1本相当：4人
- ③ 缶ビール 500ml 2本相当:0人
- ④ 缶ビール 500ml 3本相当:0人
- ⑤ 缶ビール 500ml 5本以上相当:0人

質問 4.授乳している方に対して、1 日の飲
酒量としてどの位の量が許容できると思
いますか？

- ① 一滴も飲まない：15人
- ② 缶ビール 500ml 1本相当：4人
- ③ 缶ビール 500ml 2本相当:0人
- ④ 缶ビール 500ml 3本相当:0人
- ⑤ 缶ビール 500ml 5本以上相当:0人
- ⑥ 未回答:1人

質問 5.妊産婦への飲酒習慣に対する指導
について

- ① 日常的に実施している:1人
- ② 機会があれば実施している:8人
- ③ 実施していないが、対応は可能であ
る:5人
- ④ 実施していないが専門医などと連携で
できれば実施できる:6人
- ⑤ 実施できない:0人

質問 6.診療の中で、ご自身が妊産婦への飲
酒に対する指導に使える時間はどのくら
いですか？

- ① 1分程度：9人
- ② 5分程度:10人
- ③ 15分程度:1人
- ④ 15分以上:0人

質問 7. 助産師・栄養士等が妊産婦への飲
酒に対する指導に使える時間はどのくら
いですか？

- ① 1分程度：3人
- ② 5分程度:9人
- ③ 15分程度:7人
- ④ 15分以上:1人

質問 8.妊産婦向けの飲酒指導用ツールが
あれば使用したいと思いますか？

- ① ぜひ使用したい：7人
- ② 使用したい:8人
- ③ どちらでもない:4人
- ④ あまり使用したくない:0人
- ⑤ 使用しない:人
- ⑥未回答:1人

質問10.妊産婦向けの飲酒指導用のツールは、どのような形態が有用ですか？（複数回答可）

- ① リーフレット：16人
- ② 冊子：9人
- ③ ポスター：4人
- ④ 動画：4人
- ⑤ その他：0人

質問11.妊産婦向けの飲酒指導に必要な内容はどれですか？（複数回答可）

- ① 胎児性アルコールスペクトラム障害について：18人
- ② アルコールの母乳移行について：18人
- ③ 早産、流産や低出生体重児のリスク：18人
- ④ その他：0人

D. 考察

飲酒問題の評価は十分とは言えない。スクリーニングツールや指導用のツールがあれば、活用したいと考える医師は多い。飲酒の指導に使える時間は、医師、コメディカルでも数分程度が現実的だと思われる。指導ツールの形態は、リーフレットが望ましい。内容は、FASD、母乳移行、早産、流産や低体重のリスクが高まることなどが望ましい。

E. 結論

妊産婦の飲酒実態について、産婦人科医にアンケート調査を行った。アンケート結果に基づき、次年度以降は、節酒指導用ツールの開発を行う。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

特に無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況

特に無し。